

シンポジウム

「生涯学」を知る

— 生涯観の刷新に向けた学術知の還元 —

日時 2024年 **11月24日** 日
14:00–15:30

申込詳細 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=23831>

申込締切 2024年11月20日 17:00



方式 ハイブリッド開催

会場 京都大学国際科学
イノベーション棟5階
シンポジウムホール

<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/access/>

定員：会場参加 200名（先着順）
オンライン（Zoomウェビナー） 200名

2020年度からはじまった学際的研究プロジェクト「生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新」は、今年度で一区切りを迎えます。このプロジェクトでは、従来の生涯観を刷新し、人間の生涯における変化を、社会との相互作用の中で多様な成長と変容を繰り返す生涯発達のプロセスとしてとらえ直すことを目的とした、新しい学際的研究領域である「生涯学」を創出することを目的として、心理学、社会学、人類学、教育学など多分野の研究者が一堂に会してさまざまな知見を集め、相互交流を行ってきました。

「生涯観」を刷新する上で、得られた知をさまざまな経路で社会に還元することは欠かせない活動です。具体的には、行政や政治を通じた制度の変革を通じてより安心・安全な生涯を見通せるようにすること、民間団体やインターネット（たとえばスマホのアプリケーション）を通じて生活の見直しや改善につなげること、教育プログラムを通じた成果の還元などがあります。

そしてもちろん、書籍やシンポジウム等を通じて研究成果を知ってもらうことも重要な活動です。なぜなら、私たちは私たちの生涯についてよくわかっていないことがたくさんあり、「生涯学」プロジェクトは学術研究を通じてそういった、まだよく知られていない知識を蓄積させてきたからです。

今回のシンポジウムでは、プロジェクトの中で生まれた多数の学術的知見の一部を社会に、そしてとりわけこれから「生涯」を作っていくであろう若い人たちにに向けて還元します。知ることによって変わる生涯もあるでしょう。「生涯学」プロジェクトの研究成果を知ってもらい、ネガティブなイメージで捉えられがちな高齢化社会に対する「別の見方」をぜひ知っていただければと思います。

※本シンポジウムと発表される成果の一部は科学研究費助成事業の支援を受けて実施しています。



滝口雄太 研究員
金沢大学
国際基幹教育院



石原 暢 准教授
神戸大学
人間発達環境学研究所



柴田 悠 教授
京都大学
人間・環境学研究所



新本万里子 研究員
広島市立大学
国際学部



石井山竜平 准教授
東北大学
教育学研究科

主催 文部科学省科学研究費助成事業
学術変革領域研究(A)「生涯学」総括班

共催 京都大学人間・環境学研究所 学術越境センター

14:00～14:05 開会挨拶
月浦 崇 「生涯学」領域代表（京都大学 人間・環境学研究科 教授（認知神経科学））

14:05～15:10 講演

「生涯にわたる活動がもたらす健康」

滝口 雄太（金沢大学 国際基幹教育院・研究員）

専門は心理学。東洋大学社会学研究科博士後期課程在学中。2020年より金沢大学国際基幹教育院研究員。現在では人間関係における信頼感や猜疑心のほか、余暇活動などの知的活動と認知や健康に関する研究を行っている。著書に『司法・犯罪心理学入門 捜査場面を踏まえた理論と実務』（福村出版、分担執筆）などがある。

「身体活動と脳の健康」

石原 暢（神戸大学 人間発達環境学研究科・准教授）

専門は健康・スポーツ科学、認知神経科学、脳健康科学。北海道大学理学部数学科、同大学教育学院教育学専攻博士後期課程終了。博士（教育学）。玉川大学脳科学研究所嘱託研究員、日本学術振興会特別研究員PD、北海道大学環境健康科学研究教育センター特任助教、神戸大学助教を経て2024年より現職。ライフスタイルと認知機能の関係について、認知神経科学的手法を用いて研究を進めている。

「幸せな生涯を送るには？—余暇・裁量・助け合い」

柴田 悠（京都大学 人間・環境学研究科・教授）

専門は社会学。京都大学人間・環境学研究科博士後期課程修了。2012年より同志社大学准教授、2014年より立命館大学准教授、2016年より京都大学准教授、2023年より現職。社会政策がウェルビーイング（主観的幸福感など）や人間関係に対して与える因果効果について研究している。著書に『子育て支援が日本を救う』（社会政策学会賞受賞）、『子育て支援と経済成長』（朝日新書）などがある。

「月経の可視化・不可視化—月経から女性の生涯と社会を考える」

新本 万里子（広島市立大学 国際学部・客員研究員）

専門は文化人類学。広島大学社会科学研究科博士課程後期修了。修了後、広島県内の複数の大学で非常勤講師を務めるほか、2018年10月から2022年3月まで広島大学アクセシビリティセンターにて障害のある学生の修学支援に携わり、2022年4月より現職。文化人類学の立場から、月経のある身体と社会との関係をテーマに研究を行っている。共編著に『月経の人類学—女子生徒の「生理」と開発支援』（共編著／2022年6月）がある。

「『生涯学習』政策のこれまでとこれから」

石井山 竜平（東北大学 教育学研究科・准教授）

専門は社会教育学。広島県生まれ。九州大学教育学部助手、静岡大学教育学部講師、助教授を経て2005年より現職。日本の社会教育政策を対象にした研究とともに、東日本大震災後の東北に注目し、地域に根差した集団的な学習活動の調査・報告を続けている。編著に『東日本大震災と社会教育—3・11後の世界にむきあう学習を拓く』（国土社）。日本公民館学会副会長、日本社会教育学会理事。

15:10～15:30 ディスカッション／質疑応答（会場、及びZoomからご質問を受け付けます）

【注意事項】

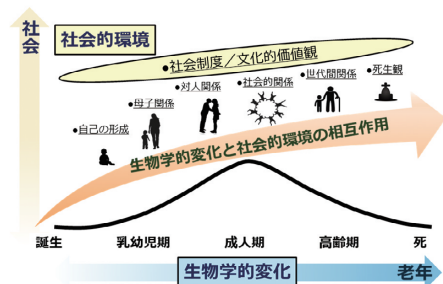
■Zoomの仕様や使い方に関するお問い合わせには、お答えしかねます。また、お客様の環境等が原因で発生した、視聴できないといったトラブルにつきましては個別の対応はございません。予めご了承ください。

■次の行為はお控えください。

- ・本イベントの全部又は一部を第三者に提供する行為
- ・本イベントの録音、録画、撮影、その他複製行為
- ・同時に二台以上のデバイスで本サービスを利用する行為

「生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新」のご紹介

65歳以上の高齢者の割合が総人口の28%を超えている我が国にとって、超高齢社会に対して社会全体としてどのように対応していくのかは、喫緊の解決が求められる重要な社会問題です。これまでは、人間の生涯は「成長から衰退へ」という単純な枠組みでとらえられてきましたが、人生100年時代の到来とともに、従来のような固定的な生涯観だけで人間の生涯を理解することは難しくなっています。そこで本領域では、従来の生涯観を刷新し、人間の生涯における変化を、社会との相互作用の中で多様な成長と変容を繰り返す生涯発達のプロセス（図1）としてとらえ直すことを目的とした、新しい学際的研究領域である「生涯学」を創出し、研究を展開します。



（図1）

そのために本領域では、行動解析を基盤とする認知心理学的研究、脳機能の計測による生理心理学的研究、精神・神経疾患を対象とする臨床心理学的研究、社会調査を基にした社会学的研究、多様な文化を対象としたフィールド調査を基にした文化人類学的研究などの基盤的研究と、それらの基礎的研究の成果を社会実装するための教育学的研究を有機的に連携させ、基礎から応用までの展開を進める多元的な人間研究を実施する予定です。本領域の進展により、全世代の人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会を実現するための科学的基盤の解明と、その成果を元にした社会実装を行い、新しい生涯観を社会と共有することをめざしていきたいと思います。（領域代表者：月浦崇・京都大学人間・環境学研究科・教授）

<https://www.lifelong-sci.jinkan.kyoto-u.ac.jp/>

